

二〇二二年八月二〇日

秋気満つ溪ニタ分けにロープウェイ	素 秀
盆波に舳先を浮かす手漕ぎ舟	素 秀
子の逝きて五十年なる墓洗ふ	はく子
糠床の馴染みて茄子の紺の艶	わかば
セピアなる写し絵の父敗戦日	ぼんこ
街灯に負けぬ明るさ盆の月	こすもす
暦年の梅酒の並ぶ水屋かな	愛 正
赤子抱く如くに店主新豆腐	かかし
無縁塚砦のごとく夾竹桃	ぼんこ
をちこちに案山子散らば柵田かな	かかし
語りつきざりし悲劇よ終戦日	こすもす
照り返す海に白帆や秋暑し	わかば
天窓を早足に行く秋の雲	素 秀

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二二年八月二二日